

人もコウノトリも棲めるふるさと鴻巣づくり ～つたえよう豊かな自然環境を 未来の子どもたちへ!～

1 社会資本の概要

荒川は、秩父山地に源を発し、埼玉県を南北に流れる埼玉の顔ともいべき河川であり、最後は東京都の人口集中地区を流下して東京湾にそそいでいます。

当会の活動フィールドである鴻巣市域は、荒川の中流域にあたり、広大な河川敷は川幅日本一として、鴻巣市の観光の目玉の一つとなっており、川幅グルメシリーズ（うどん、蕎麦等）などの製品の他、花火大会（4尺玉は、ギネス記録に認定）も行われ市民に広く親しまれています。

また、沿川の市街化が進むなかで、豊かな自然を有する貴重な空間となっているほか、サイクリングやジョギング、散歩の空間として地域内外の住民に広く利用されています。

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

コウノトリは、かつて日本各地で見られましたが、湿地の減少や農薬の影響等、生息環境の悪化により野生絶滅してしまい、近年は飼育個体の放鳥による野生復帰の取組が進められています。

鴻巣市にとって、コウノトリは市名の由来の一つと言われ、市民にとってもなじみ深いものとなっており、会では、コウノトリを取組のシンボルとして掲げ、湿地環境の保全再生や地域振興に取組み、人にも生きものにもやさしい持続可能な地域づくりを目指し取組を進めています。

会は、平成19年より活動をはじめており、主な活動として、荒川の河川敷にコウノトリの生育環境を作る「湿地ビオトープの整備」や、地域の農家や団体と連携して“ふゆみず田んぼ”“なつみず田んぼ”“魚道設置”や“無農薬・有機栽培”に取り組む「モデル水田プロジェクト」、湿地ビオトープやモデル水田における子供たちや保護者を対象とした「いきもの観察会」や外来種駆除を兼ねた「自然体験」などのイベントを行っています。このような活動を続けることで未来の子供たちへ自然環境を引継ぐことができると考えています。



外来種駆除を兼ねた
湿地ビオトープでのザリガニ釣りイベント



モデル水田では、田植え、生きもの観察会、
収穫祭等のイベントを開催



田んぼと水路を繋ぐ魚道を設置することで、
田んぼに魚が上ってこれる



維持管理活動（セイタカアワダチソウの駆除）



埼玉県 鴻巣市

特定非営利活動法人 鴻巣こうのとりを育む会



3 活動の成果や波及効果等

いきもの観察会などのイベントには多くの方が参加しており、子供たちに自然体験の機会を提供するだけでなく、保護者も含め環境への理解が深まっています。

また、活動の広報として鴻巣市のFM局「フラワーラジオ」の番組に月に1回（毎月第2金曜日午後1時～）、ゲストとして会員が参加、情報発信を継続実施しており、最近では、市内外からの協力者や応援者が増えてきています。

平成27年3月に鴻巣市が作成した「コウノトリの里づくり基本計画」では、当会が署名を集め発信し続けてきた「コウノトリの飼育・放鳥」が盛り込まれました。また、計画の記述の中で当会の取組みが取り上げられました。



湿地整備で確認されるようになった希少種
ミクリ(左)、タコノアシ(中)、イチョウウキゴケ(右)



湿地整備で増えた生きもの
トウキョウダルマガエル(左)、アマガエル(右)

喜びの声



受賞者

NPO法人鴻巣こうのとりを育む会
代表理事 伊藤 鏗義

コメント

ご支援ご協力頂いた方々、イベントに来てくれた子ども達、皆で頂いた賞です。湿地ビオトープの再生、生きものの賑わいの帰ってきた水辺……。これからも皆の笑顔を源に活動し、コウノトリが飛翔する鴻巣を目指します！

活動内容

- 湿地ビオトープの整備(再生)・維持管理、イベント実施
- 周知・PR、普及啓発、無農薬・有機栽培による米づくり等

活動の経緯

- 平成19年 任意団体として発足
- 平成21年 コウノトリ飼育放鳥の署名活動
- 平成22年 「コウノトリ講演会」を主催
- 平成23年 湿地ビオトープ第1号整備
- 平成24年 NPO法人取得
- 平成25年 コウノトリ育む田んぼオーナー制度開始
- 平成26年 湿地ビオトープ第2号整備
- 平成28年 「コウノトリを支える市民の会」に参加

手づくり郷土賞

グランプリ2016

講評

大賞部門

一般部門

資料集

所在地

- ①鴻巣市滝馬室地先／②鴻巣市原馬室地先

活動主体及び連絡先

NPO法人鴻巣こうのとりを育む会 (090-4370-7424)

対象となる社会資本

荒川河川敷 ①コウノトリ郷公園ビオトープ／②原馬室湿地
※管理者：国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所

